

地域の自然資源を生かした取り組みの提案

1 はじめに

私は、3年前に福岡の教員を早期退職しUターンしました。住んでいるのは、アジフライの聖地として地域振興をしている松浦市です。3年ほどの生活で、自然豊かな山々の中に、多くの動物が生息していることを知りました。具体的には、イノシシ、鹿、いたち、きつね、たぬき、うさぎです。空には多くのトンビが飛んでいます。この自然を活かした何かができないかを考えました。テレビで、世界で唯一「キツネと触れ合える施設」が日本にあることがヒントになりました。前述の動物を近くで観察し触れることができる施設があると面白いと思いました。アジフライは「食」の魅力ですが、この案は都会では体験できない観光で松浦を訪れた人々にとって印象深いものになると思いました。松浦市の隣の平戸市には「昆虫館」があります。

2 調査、稼働

地域、例えば御厨町山間部。各動物の生息数を調査します。その後捕獲（移動）します。施設（園）を作り外（遊歩道）から観察できるようにします。また、一部の獣類とは、安全に配慮しながら触れ合えるよう計画します。人気の可愛いパンダやキリンは動物園で観察できます。イノシシ等の害獣を見に来る人がいるかと批判されるかもしれませんが、「ウサギを抱いてみたい」とか「トンビの巣」を観てみたいという人は潜在的にいると思います。もちろん運営上入場料等を徴収することになりますが、地域の特徴（自然等）を活かす取り組みは、日本のどこであっても重要なことだと考えます。海外からの観光客も「珍しい体験施設」に興味を持つと考えます。従って植物も桜や楓、松等の木々や草花を地域のものを利用して魅力的に配置します。

3 効果

松浦市の場合「アジフライの聖地」として、アジフライを食べてお土産品として他の果物等とともに購入され、経済効果があります。加えてこの案は、観光資源の幅を広げることに寄与すると考えます。物質的なものではなく、心の癒し（自然との触れ合い）を求めて人が集まるということです。動物擁護の心や自然保護の大切さを啓発する効果もあると思います。